*英語翻訳-参照目的のみ*

*これは、日本国外の読者の便宜のために作成された日本語の原文の非公式の翻訳である。日本語の原文とこの翻訳の間に不一致がある場合には、日本語の原文が優先する。*

会社計算規則第131条に基づく監査役等への報告事項の通知

2019年月日

あずさ監査法人

目次

[1.品質管理体制 1](#_Toc14425070)

[2.トップのトーン 3](#_Toc14425071)

[（1） 品質とリスク管理のリーダーシップ責任 4](#_Toc14425072)

[3.適切なクライアントとの連携 5](#_Toc14425073)

[（1） 顧客及び契約の受け入れ及び継続 5](#_Toc14425074)

[（2） 見込み顧客と契約の受け入れプロセス 5](#_Toc14425075)

[（3） 継続性プロセス 6](#_Toc14425076)

[（4） 引出し 6](#_Toc14425077)

[（5） クライアントのポートフォリオ管理 6](#_Toc14425078)

[4.明確な標準と堅牢な監査ツール 7](#_Toc14425079)

[（1） 当社の監査手法 7](#_Toc14425080)

[（2） 独立性、誠実性、倫理性、客観性 9](#_Toc14425081)

[5.適任者の採用、育成、配置 13](#_Toc14425082)

[（1） 採用 14](#_Toc14425083)

[（2） 自己啓発 14](#_Toc14425084)

[（3） インクルーシブ・プログラムと多様性プログラム 14](#_Toc14425085)

[（4） 品質とコンプライアンスの測定基準を含む評価プロセス 15](#_Toc14425086)

[（5） パートナーの加入 15](#_Toc14425087)

[（6） 専門家の配置 15](#_Toc14425088)

[（7） グローバル・ピープルズ・サーベイ （GPS） 16](#_Toc14425089)

[6.卓越した技術と高品質のサービス提供への取り組み 17](#_Toc14425090)

[（1） 生涯学習戦略 17](#_Toc14425091)

[（2） IFRS及び米国GAAP契約のライセンス供与及び強制要件 17](#_Toc14425092)

[（3） 専門家ネットワークへのアクセス 18](#_Toc14425093)

[（4） 協議の文化 18](#_Toc14425094)

[（5） ビジネス理解と業界知識の開発 19](#_Toc14425095)

[7.効果的かつ効率的な監査の実施 19](#_Toc14425096)

[（1） 継続的な指導、監督及びレビュー 19](#_Toc14425097)

[（2） タイムリーな契約品質管理 （EQC） レビュー担当者 20](#_Toc14425098)

[（3） 報告等 20](#_Toc14425099)

[（4） 洞察力に富み、オープンで正直な双方向コミュニケーション 21](#_Toc14425100)

[（5） 前任監査人と後任監査人との意思疎通 21](#_Toc14425101)

[（6） クライアントの秘密保持、情報セキュリティ及びデータプライバシー 21](#_Toc14425102)

[（7） リスク関連情報 21](#_Toc14425103)

[8.継続的改善への取り組み 22](#_Toc14425104)

[（1） 内部モニタリングとコンプライアンスプログラム 22](#_Toc14425105)

[（2） 外部からのフィードバックと対話 24](#_Toc14425106)

# 

# 品質管理体制

**概要**

あずさ監査法人は、KPMGの国際的な方針及び手続を実施するとともに、金融庁、日本政府及び日本公認会計士協会 （JICPA） の企業会計審議会及びその他の規制当局により公表された規則及び基準、並びに公認会計士法、会社法、金融商品取引法、その他の関連規則、JICPAの法律による監査基準及び品質管理基準、並びにJICPAの監査に関する倫理規定及び実務指針等の現地の法律に対応するための追加的な方針及び手続を採用している。

堅牢で一貫性のある品質管理システムは、高品質なサービスを提供するために不可欠な要件である。そのため、KPMGインターナショナルは、すべての会員企業に適用される品質管理方針を持っている。これらは、すべてのKPMG担当者が利用できるKPMGのグローバル品質・リスク管理マニュアル（グローバルQ&RMマニュアル）に含まれている。

これらの方針及び関連手順は、メンバーファームが関連する職業上の基準、規制及び法的要件を遵守し、状況に応じた報告書を発行するのを支援するとともに、取引所の会員会社従業員が誠実かつ客観的に行動し、勤勉にその業務を遂行するのを支援することを目的としている。これらの方針と手続きは、国際監査・保証基準審議会 （IAASB） が発行した品質管理に関する国際基準1 （ISQC 1号）と、会計士のための国際倫理基準審議会 （IESBA） が発行した専門会計士のための倫理規定に基づいている。これらはいずれも、法定監査及びその他の保証業務及び関連サービス業務を行う会員企業に関連している。

KPMG AZSAは、KPMGの国際的な方針及び手続を実施することが求められており、また、金融庁、JICPA及びその他の関連規制当局が発行した規則及び基準、並びに適用される法的及び規制上の要件に対応するための追加的な方針及び手続を採用している。倫理及び独立性の方針を含む、リスク及び品質の方針の修正は、品質及びリスク管理の警告に含まれ、電子メールによって伝達される。

KPMG AZSAは、電子メールアラートに指定された変更を実装するために必要であり、これは内部モニタリングによってチェックされる。

品質管理とリスクマネジメントは、KPMG AZSAの全社員が責任を持って行う。この責任には、日常業務を遂行する上での会社の方針及び関連手続きを理解し、遵守する必要性が含まれる。品質管理のシステムは、すべてのKPMGスタッフが拠点を置く場所に関係なく適用される。

KPMGの品質管理プロセスの多くは部門横断的であり、助言業務にも同様に適用されるが、このセクションの残りの部分では品質監査の実施に焦点を当てる。

**監査品質フレームワーク**

KPMG AZSAでは、監査の質は正しい意見に到達することだけではなく、その意見にどのように到達するかにかかっている。それは監査人の報告書の背後にあるプロセス、思考、誠実さに関するものである。品質監査の結果は、関連する専門的基準及び適用される法律上及び規制上の要件に従って適切かつ独立した意見を提供することである。

すべての監査専門家が品質監査を実施するために必要な基本的なスキルと行動に集中できるように、KPMG Internationalは監査品質フレームワークを開発している。このフレームワークでは、KPMG AZSAを含むすべてのKPMGメンバーファームが採用している共通言語を使用して、KPMGネットワークが監査の質を高めると考えていることを説明し、各KPMG 取引所の会員会社のすべての監査専門家が監査の質の提供にどのように貢献しているかを強調している。

トップのトーンは、Audit Quality Frameworkの監査品質の7つの推進要因の中核であり、適切な動作がKPMGネットワーク全体に浸透することを確実にするのに役立つ。他のすべての推進要因は、それぞれの運転者が他の要因を強化することを意図しているため、好循環を生み出す。このレポートの以降のセクションでは、7つのドライバのそれぞれについて詳しく説明している。

# トップのトーン

KPMGインターナショナルとKPMGメンバー企業の文化は、強力な価値観とそれを支える政策とプロセスによって支えられており、それによって正しい態度と行動がKPMGネットワーク全体に浸透することが可能になっている。

当社のグローバル・リーダーシップは、地域及び取引所の会員会社のリーダーと協働し、品質及び最高水準の専門的卓越性に対する当社のコミットメントを確立する上で重要な役割を果たしている。利害関係者や投資家が信頼する監査やその他のサービスを実施する組織においては、品質、誠実さ、倫理に基づく文化が不可欠である。

KPMG AZSAでは、相談が奨励され、強みとして認識される文化を推進している。

トップに立つということは、KPMG AZSAのリーダーシップが品質、倫理、誠実さへのコミットメントを示すとともに、顧客、ステークホルダー、そして社会全体にそのコミットメントを伝えることを意味している。誠実さは、利害関係者が期待し信頼する重要な特性である。それはまた、鍵となるKPMGの価値でもあり、 「何よりも、私たちは誠実に行動する」 。誠実さとは、常に最高の専門的水準を維持するよう努力し、健全で質の高い助言を提供し、当社の独立性を厳格に維持することを意味する。

KPMGの価値は、何年も前から明確に成文化されており、KPMG AZSAの実務やコンプライアンス文化に組み込まれている。

KPMGの価値観は私たちの文化の基盤を形成し、そのトーンを頂点に据えている。また、KPMGアプローチの基盤を形成し、私たちがどのように協力していくかを監査し、形成する。私たちは、KPMGの価値観を社員に明確に伝え、それを社員のプロセス、すなわち帰納、能力開発、報酬に組み込む。

**KPMGグローバル行動規範**

KPMGの誠実さと品質へのコミットメントは、私たちのやり方の中心にあるKPMGの価値観の中に謳われている。これらは、KPMGの多様で包括的な文化と、適切な個人的及び専門的行動への当社のコミットメントを定義している。KPMGの価値観は、何よりも、KPMGの職員が誠実に行動し、最高の職業基準を守り、健全な助言を提供する一方で、厳格に独立性を維持し、法律、規制、職業基準を遵守することを強調している。KPMGの価値観はすべての人々に明確に伝えられ、メンバー企業の人事プロセス （帰納、業績向上、報酬） に組み込まれている。

KPMGの価値観に基づいて、KPMGグローバル行動規範が策定されている。

KPMG AZSAを含む会員企業は、最低限、 「グローバル行動規範」 を採択することが求められている。

**あずさ行動規範**

KPMG AZSA行動規範は、KPMG AZSAのすべてのパートナーと従業員に対する倫理的行動の期待を示し、KPMGの共通の信念と原則であるKPMGの価値観に基づいて構築されており、また、KPMG AZSA行動規範は、各パートナーと従業員が自身の職務機能と責任のレベルに適用される法的、専門的、倫理的基準に従うことに個人的に責任があることを強調している。KPMG AZSA行動規範は、当社のコミットメントを定めており、要約すると、以下のことをKPMG職員に求める規定を含んでいる。

* 適用されるすべての法律、規制、専門基準、及びKPMG AZSAポリシーを遵守する;
* 適切な顧客や第三者と協力する;
* 品質重視;
* KPMG AZSA内で、当社の取引先である顧客又はサプライヤー、或いは公務員が行う違法行為や非倫理的行為を容認しないこと;
* 情報を保護する;
* 公平に競争する;
* 私たちの人々が非凡であることを;
* 責任ある企業市民である;
* 国民の信頼を築く。

KPMG AZSAのすべての担当者は、次のことを実行することを求められている。

* グローバル行動規範とKPMG AZSA行動規範の両方を遵守し、入社時とその後毎年行動規範の遵守を確認する;
* 入社時とその後毎年、行動規範に関する定期的な研修を修了すること。

個人は、自分を不快にさせるものや、KPMGの価値観と矛盾するものを見たときには、声を上げるように勧められる。さらに、KPMGの全員が、違法となる可能性のある、又はKPMGの価値観、KPMGの方針、適用される法律、規制又は専門基準に違反する可能性のあるすべての活動を報告する責任を負い、報告するよう要求されている。

社員が倫理的・品質的な問題を報告できるよう、手順を設け、コミュニケーションのチャネルを確立している。「手を挙げて」 誠実に発言する個人に対する報復は禁止されている。また、KPMGの内部関係者及び外部関係者から掲示された不正リスク（すなわち、不正による重大な虚偽表示のリスク）に関する情報を含むすべての情報が、関係するエンゲージメントパートナーとコミュニケーションを図り、その監査結果を本店に報告する。

さらに、KPMGインターナショナル・ホットラインは、すべてのKPMGパートナー、従業員、顧客、及びその他の外部当事者が、KPMGインターナショナル自体、KPMGメンバー企業、又はKPMG 取引所の会員会社の上級指導者や従業員による特定の活動分野に関連する懸念を秘密裏に報告するためのメカニズムである。KPMG AZSAでは、定期的にGlobal People Survey （GPS） （5. （7） 参照）を通じて、私たちがKPMGの価値観をどの程度受け入れているかを監視している。

## 品質とリスク管理のリーダーシップ責任

KPMG AZSAは、品質、倫理、誠実性へのコミットメントを示すとともに、お客様、ステークホルダー、社会に向けて品質重視の姿勢を発信している。当社のリーダーシップは、最高水準の専門的卓越性への揺るぎないコミットメントを示すことによって、また主要なイニシアチブを支持することによって、正しい調子を設定し、主導する上で重要な役割を果たしている。

当社のリーダーシップ・チームは、品質、誠実さ、倫理に基づいた文化の構築に取り組んでおり、その活動は、書面及びビデオによるコミュニケーション、チームへのプレゼンテーション、1対1の話し合いを通じて実証されている。

KPMG AZSAでは、品質管理とリスク管理の責任者として以下の方々にご協力をいただいている。

**マネージング・パートナー**

当社のマネージング・パートナーは、ISQC 1の原則に従い、不正リスクに対する監査対応を含むKPMG AZSAの品質管理システムについて、最終的な責任を負っている。

**品質担当役員**

KPMG AZSAにおける品質管理・リスク管理・コンプライアンス体制の運営責任は、品質担当執行役員に委譲されており、品質担当執行役員は、総合的な専門的リスク管理・品質管理方針の設定とコンプライアンスのモニタリングを担当している。

マネージング・パートナー及び品質担当執行役員は、品質管理システムに関する当社の内部方針、及び監査の品質を優先する行動とメッセージを、社内会議及びニュースレターを通じて専門家に伝達する。

エンゲージメントパートナーは、関与する各エンゲージメントの品質及びリスク管理に責任を負う。

# 適切なクライアントとの連携

## 顧客及び契約の受け入れ及び継続

監査の質を管理するための鍵の1つは、顧客の性質と顧客が直面する問題を理解し、特定されたリスクに対する強固な監査対応を構築することである。

私たちは、クライアントが私たちの仕事の質と私たちの評判に結びついていることを理解している。

厳格なクライアント及びエンゲージメントの受け入れと継続のポリシーとプロセスは、KPMGの評判を守り、KPMGブランドをサポートし、高品質のプロフェッショナルサービスを提供する当社の能力の重要な部分である。したがって、KPMGインターナショナルは、顧客との関係を受け入れるか継続するか、及び顧客のために特定の契約を履行するかどうかを決定するために、すべての会員企業が実施することを要求される方針及び手続を確立している。

## 見込み顧客と契約の受け入れプロセス

KPMG AZSAは、すべての見込み客の評価を請け負っている。

これには、背景が見込み顧客、その鍵となる経営陣、及び重要な実質的所有者をチェックし、情報に基づいて受け入れの決定を下すことができるように情報を適切に分析することが含まれる。この評価には、顧客のリスク特性を評価するためのアンケートの完了、並びに顧客、その主要な経営陣、取締役及びオーナーに関する背景の情報の入手が含まれる。当社はまた、現地の法律及び/又は規制上の要件を満たすために必要な追加情報を入手する。

第2のパートナーは、評価パートナーと同様に、各見込み顧客評価を承認する。クライアントが 「高リスク」 であると考えられる場合、リスク管理パートナー、場合によっては事務管理パートナー、又は品質担当理事による追加承認が必要となる。

**エンゲージメント評価**

また、それぞれの見込み契約も評価され、契約に関連する潜在的なリスクが特定される。この評価では、独立性の可能性と利害抵触の問題（SentinelTM、KPMGのコンフリクト及び独立性チェックシステムの使用）、契約成果物の使用目的と使用方法、契約の種類に固有の要素など、さまざまな要素が考慮されており。監査サービスについては、これには、顧客の財務管理チームの能力、エンゲージメント及び不正リスクのスタッフに割り当てられた人員の技能及び経験が含まれる。評価は、KPMG AZSAの他の上級職員と協議して行われ、必要に応じて品質及びリスクマネジメントのリーダーシップによるレビューが含まれる。

監査サービスが初めて提供される場合、見込みのあるエンゲージメントチームは、クライアントに提供される非監査サービス、並びにその他の関連するビジネス及び個人的な関係のレビューを含む、追加の独立性評価手続を実施することが要求される。

同様の独立性評価は、既存の監査依頼者が公益法人となった場合、又は依頼者の状況の変化に伴い追加の独立性制限が適用された場合に行われる。当社は、公益事業体である潜在的な監査クライアントの独立性に対する脅威を特定し、評価するために、特定の手順（詳細は4. （2） 7項に記載）に従っている。

潜在的な顧客と契約の全体的なリスク評価に応じて、特定されたリスクを軽減するのに役立つ追加の予防策が導入されるかもしれない。独立性の潜在的な問題又は利害抵触の問題は、受入れ前に文書化し、解決することが要求される。

潜在的な独立性又は対立の問題が、専門的な基準及び当社の方針に従って満足のいく形で解決できない場合、又は適切に軽減できないその他の品質及びリスクの問題がある場合、潜在的な顧客又は関与は拒絶される。

## 継続性プロセス

KPMG AZSAは、すべての監査クライアントの再評価を毎年実施している。再評価では、継続的な関連付けに関連する問題と、実施する必要のある緩和手順を特定する。

定期的又は長期にわたる非監査業務も再評価の対象となる。さらに、顧客及び契約は、そのリスクプロファイルに変化があるかもしれないという兆候がある場合には、再評価することが要求される。

## 引出し

契約又はクライアントとの関係から撤退すべきであることを示す情報を弊社が入手した場合、弊社は社内で協議を行い、必要な法的、専門的、及び規制上の責任を特定する。また、必要に応じて、ガバナンス及び適切な権限を担当する者との間でもコミュニケーションを図る。

## クライアントのポートフォリオ管理

当社のリーダーシップは、適切な能力、能力、時間及び権限を有するエンゲージメント・パートナーを、各エンゲージメントにおける役割を果たすために任命する。

当社は、少なくとも年1回、監査パートナーと個別に協議し、各監査パートナーの顧客ポートフォリオを精査する。レビューでは、すべてのクライアントに対して品質監査を実施するためのパートナーの能力、能力、及び能力とともに、クライアントのポートフォリオ全体の業界、性質、及びリスクを考慮する。

# 明確な標準と堅牢な監査ツール

KPMG AZSAのすべての専門家は、独立性に関する方針を含め、KPMGインターナショナル及びKPMG AZSAの方針と手続きを遵守することが期待されている。これらの期待に応えるために、さまざまなツールとガイダンスが提供されている。

監査業務のために設定された方針及び手続は、会計、監査、倫理及び品質管理基準並びにその他の関連する法令及び規則の関連する要件を含んでいる。

## 当社の監査手法

KPMGは、ネットワークの監査機能の発展に多大な投資を行ってきており、KPMGクララのプラットフォーム （KPMGのスマートなモジュラー型監査プラットフォーム） を通じて提供される新しいグローバル電子監査ワークフローを含め、今後数年にわたって監査機能の発展に継続的に投資していく予定であり、データ、自動化、及び視覚化を活用する高度な機能が組み込まれた、新しいテクノロジーを継続的に統合することが可能になっている。データ&アナリティクス （D&A） は、KPMGのメンバー企業がデジタル時代に監査証拠を入手し、顧客と対話する方法に欠かせないものだ。

KPMGの質の高い監査プロセスには、引き続き以下のものが含まれる。

* 契約期間中のタイムリーなパートナーとマネージャの関与;
* 専門家の関与、研修及び経験要件、関連業界の専門知識を含む適切な知識へのアクセス;
* 適切な専門家の判断を行い、監査中に得られたすべての監査証拠の重要な評価;
* エンゲージメントチームの継続的な指導、監督、レビュー。

1. 一貫した監査方法とツール

KPMGの標準とツールを完全かつ最新の状態に維持するために、膨大なリソースが費やされている。KPMGの監査手法は、グローバル・サービス・センター （GSC） が開発したもので、国際監査基準 （ISA） の要件に基づいている。KPMG監査方法は、KPMG監査マニュアル （KAM） に規定されており、ISAを超える追加要件を含んでおり、KPMGインターナショナルは監査の質を向上させると考えている。この方法論は、監査手続の実施において適切な専門家としての懐疑主義を適用することを重視しており、独立性を含む関連する倫理的要件の遵守を求めている。監査方法、ガイダンス、ツールの強化は、定期的に行われ、標準、新たな監査重点分野、監査品質結果（内外の）に準拠している。主要なトピックには、会計上の見積り、内部統制、収益の認識、グループ監査、監査のサンプリング、リスク評価が含まれる。

KPMGのメンバー企業は、専門家、法律、又は規制上の追加要件を遵守するために、地域の要件やガイダンスをKAMに追加することができる。

KAMには、特に、重要な誤って述べることのリスクを特定し評価するための手順及び評価されたリスクに対応するための手順に関する例及びガイダンスが含まれている。

KPMGの監査手法は、適切な場合には専門家の利用を奨励し、また、一定の基準が満たされた場合や監査チームが適切又は必要と考える場合には、中核的な監査チームに関連する専門家の関与を要求する。

KAMに規定されている方針と手続きは、監査に固有のものであり、すべてのKPMGメンバー企業、職能、及び職員に適用されるグローバルQ&RMマニュアルに規定されている方針と手続きを補足するものである。

KPMG監査ワークフローは、アクティビティベースのワークフローと電子監査ファイルであるeAudITを介して有効化されている。eAudITはKPMGの監査文書ワークフローであり、75,000人以上の専門家が高品質で一貫性のある監査を完了することを可能にする。eAudITは、KPMGの監査方法論、ガイダンス、業界の知識に加え、実施した監査作業を実行して文書化するために必要なツールを統合している。

eAudITは、監査対象の企業の性質に応じて、また専門的な基準や適用される法規制上の要件に従って、関連する要件やガイダンスを提示するように 「拡大」 することができる。当社の監査ガイダンス、専門的な基準、及びドキュメントテンプレートに直接アクセスすることができる。

KPMG監査方法論 （KAM） とワークフローツール （eAudIT） の改訂と強化に向けた多大な投資が進行中であり、2018年に試験的に導入されたKPMG Clara Workflowは、2019年にグローバルに最初の導入を行い、2020年からは完全な導入を計画している。

**KPMG Clara、KPMG Claraワークフロー及び監査データと分析 （D&A）**

KPMGインターナショナルは、監査の質を向上させ、監査の実施に一貫性を持たせ、取引所の会員会社と業務のグローバルな監視を強化するために、多大な投資を行っている。

**KPMGクララ**

2017年、KPMGインターナショナルは、KPMGの監査データ及び分析 （D&A） 機能、革新的な新技術、コラボレーション機能、監査ワークフローを統合したKPMGのSmart Audit PlatformであるKPMG Claraの世界的な立ち上げを開始した。

これはKPMGの次のような野望を表している。

* 最新のテクノロジー対応の新しいインターフェイスとコラボレーション機能により、従業員とクライアントの監査実行を変革;
* 監査をデジタル化し、新しいD&Aルーチンを提供するために必要な機能を統合する;
* ワークフローの強化と再設計を可能にする;
* エンゲージメントレベル及びエンゲージメントポートフォリオ全体のモニタリング能力を開発し、エンゲージメントチームやメンバー企業が利用できるようにする;
* 取引所の会員会社の品質管理システムの有効性に関する世界的な指導者による監視を支援する;
* 取引所の会員会社のカスタマイズと拡張、及び将来の機能を可能にする拡張可能な監査プラットフォームを開発する。

**KPMGクララワークフロー**

KPMG Internationalは、2017年のKPMG Claraの立ち上げを基に、KPMG監査チームがKPMG監査を実施し、文書化するために使用する新しいワークフローツールを作成している。直感的で使いやすく、現代的なものになるだろう。新しいシステムは、情報とビジュアル、知識とガイダンスが必要に応じてより明確に表示され、高度なD&A機能が組み込まれており、監査チームを論理的な順序で一連のステップに導くワークフローとなる。ワークフローと方法論も拡張可能であり、監査契約の規模と複雑さに合わせて要件を調整していく。このグローバルに推進されるプロジェクトは、KPMGの専門家による監査の実施を大幅に見直し、再設計し、監査の質を向上させることになる。

**データ分析 （D&A） の監査**

**D&AによるKPMGの監査:**

* それは、より高いリスクのトランザクションに焦点を当て、データ集団のより深い理解を提供することによって、監査の質を向上させる。
* 転送中及びKPMGのIT環境内の両方でデータへのアクセスを制限するため、セキュリティが確保されている。
* これは、異常値や異常の背後にある理由や根本原因を明らかにするための詳細な分析を容易にするとともに、よりリスクの高いトランザクションやプロセス領域の可視性を高めることによって、透明性を提供する。

D&Aツール及びルーチンは、監査の基礎となる原則及び専門的基準に基づいて構築されており、監査人の責任を免除するものではない。

## 独立性、誠実性、倫理性、客観性

1. 概要

監査人の独立性は、国際的な職業基準及び規制要件の基礎である。

KPMGインターナショナルは、IESBA倫理規定の要件を盛り込んだ、詳細な独立性に関する方針と手続きを有している。これらは、KPMGのグローバルQ&RMマニュアルに記載されている。自動化されたツールにより、これらの要件へのコンプライアンスが容易になっている。

これらの方針は、公認会計士法及び日本公認会計士協会が定める倫理規定の遵守を確保するためのその他のプロセスによって補足される。

これらの方針及びプロセスは、企業の独立性、個人の独立性、企業の財務関係、雇用後の関係、パートナーの交代、監査及び非監査サービスの承認などの分野をカバーしている。

KPMGインターナショナルにはグローバル独立グループのパートナーがおり、専門家のコアチームの支援を受けて、KPMGのメンバー企業に強固で一貫性のある独立の方針と手続きが整備され、彼らとその従業員がこれらの要件を遵守するためのツールが利用できるようになっている。

KPMGAZSAには、倫理・独立性にかかわる方針と手続きの指示と実行について第一義的な責任を負う、倫理・独立性パートナー （EIP） が任命されている。

KPMGインターナショナルの倫理及び独立性に関する方針の今年中の修正は、定期的な品質及びリスクに関するコミュニケーションに含まれている。

会員企業は、電子メールアラートに指定された変更を実施する必要があり、これは内部モニタリングプログラムを通じて確認される。

KPMG AZSAの担当者は、当社の内部規則に定められた特定の事項についてEIPと協議することが要求されている。また、事実関係及び状況次第では、グローバル独立性グループとの協議が必要となる場合がある。

1. 個人の経済的自立

KPMGの国際的な方針は、KPMGのメンバーファームとKPMGの専門家は、KPMG 取引所の会員会社の監査クライアント、その経営陣、取締役、及び重要な所有者との禁止された金銭的利益や禁止された関係から自由であることを要求している。また、当該方針は、監査クライアントの有価証券の所有に係るIESBAの倫理規定の制限を、取引所の会員会社の監査クライアントに関して当事務所において部長クラス以上のすべてのパートナー及びスタッフに拡大するものである。

KPMG AZSAの専門家は、独立性の目的で制限されている個人的な金銭的、事業上、又は家族上の利益を有さないことを確実にするために、適切な照会及びその他の適切な措置を継続的に講じる責任を負っている。

他のKPMGメンバー企業と同様に、当グループは、当グループの専門家が個人の独立性投資方針を遵守するのを支援するために、ウェブベースの独立性コンプライアンス・システム （KICS） を使用している。このシステムには、公開されている投資のインベントリが含まれている。

パートナー及びマネージャー以上の顧客担当者は、投資を開始する前にKICSシステムを使用して、許可されているかどうかを確認する必要がある。また、KICSへの投資がすべて記録され、投資が制限されると自動的に通知されるようになっている。新たに制限された投資は、通知から5営業日以内に処分されなければならない。

KPMGは、試料の専門家による独立性コンプライアンス監査プログラムの一環として、パートナー及びマネージャーがこの要件を遵守しているかどうかを監視している。

1. 雇用関係

監査クライアントに対して職務に関係なくサービスを提供する専門家は、当該監査クライアントと雇用交渉を行う予定である場合には、当社のEIP、当該監査クライアントの委託先及び人事部に通知しなければならない。

監査チームの元メンバー又はKPMG AZSAの元パートナーは、KPMG AZSAとの重要な関係 （確定されていない、決定されていない、及び/又はKPMG AZSAにとって重要である支払い、並びにKPMG AZSAの事業及び専門的活動への参加を中止したものを含む。） から離脱していない限り、監査クライアントの特定の役割に参加することを禁じられている。

主要な監査パートナー及び公益事業体である監査クライアントのコマンドチェーンのメンバーは、時間制限（クーリング・オフ期間という）の対象となり、定義された期間が経過するまで、特定の役割でそのクライアントに参加することができない。

当社は、監査クライアントによるKPMG AZSAの専門家の雇用に関する要求事項を伝達し、監視している。

1. 企業の財務上の独立性

また、KPMGのメンバー企業は、監査クライアント、その経営陣、取締役、及び重要な所有者との間に禁止された利害関係、及び禁止された関係を持たなくてはならない。

他のKPMGメンバー企業と同様に、KPMG AZSAはKICSを利用して、ウェブベースの独立性追跡システムに自社の投資（例えば年金・退職金制度や財務活動を通じて行われる）を記録している。この記録は、当社のコンプライアンスプロセスを通じて監視される。

1. 取引先

KPMG AZSAは、IESBA倫理規定、日本の公認会計士法、JICPA及びSECが発行した倫理規定、米国のPCAOB規則の要件に従って、事業関係が維持されるように設計された方針と手続きを整備していた。

1. 独立クリアランスプロセス

KPMG AZSAは、公益事業体である潜在的な監査クライアントに関連する独立性への脅威を特定し、評価するための特定の手順に従っている。これらの手続きは 「独立性クリアランス・プロセス」 とも呼ばれ、これらの組織の監査契約を受け入れる前に完了しなければならない。

1. 独立性に関する研修と確認

すべてのKPMG AZSAパートナーと顧客サービスの専門家は、その他の特定の個人と同様に、KPMG AZSAに加入した時点で、またその後も年に一度、自身の等級と機能に応じた独立性に関するトレーニングを完了していなければならない。この研修を修了するために必要な新規要員は、 （a） KPMG AZSAに加入して30日後、又は （b） 監査クライアント （監査クライアントの関連事業体又は関連会社を含む） にサービスを提供する前、若しくは監査クライアントの指揮系統のメンバーになる前のうち、いずれか早い方までに修了しなければならない。

また、全社員を対象に、グローバル行動規範、KPMG AZSA行動規範、倫理的行動に関する研修を実施しており、これには、贈収賄防止に関するKPMGの方針、法律、規制、職業基準の遵守、及び法令、規制、職業基準、KPMGの方針に対する違反の疑い又は実際の違反の報告を2年に1回実施している。KPMG AZSAに入社してから3ヶ月以内にこのトレーニングを完了する必要がある。

KPMGの全社員は、採用を承認された時点で、適用される倫理及び独立性に関する規則と方針を遵守していること、また今後も遵守することを確認する必要がある。

その後、すべてのKPMGの職員は、確認の対象となる年を通じて適用される倫理及び独立の方針を遵守していること、適用される行動規範を理解していること、及び遵守していることを記載した年次確認書に署名することが要求される。この確認は、個人がKPMGの独立性ポリシーを遵守し、理解していることを証明するために使用される。

1. パートナーのローテーション

当社のローテーション・ポリシーは、公認会計士法及びJICPA倫理規定に準拠しており、現地で適用されるより厳格なローテーション要件を遵守することを当社に義務付けている。

KPMG AZSAパートナーは、適用される法律、規制、独立性に関する規則、及びKPMGインターナショナルの方針に基づき、監査クライアントに対する責任を定期的に交代させられることを条件としている。

これらの要件では、特定の役割を持つパートナーがクライアントに監査サービスを提供できる年数に制限を設け、その後、パートナーが監査に参加できない 「タイムアウト」 期間、監査の品質管理を提供できない期間、技術的又は業界固有の問題についてエンゲージメントチーム又はクライアントと協議できない期間、又は何らかの方法で監査の結果に影響を与えない期間を設定する。

KPMG AZSAは、監査エンゲージメントリーダー（主要監査パートナーやEQCレビュー担当者など、ローテーションが必要なその他の主要な役割）の交代を監視し、クライアントに一貫したサービス品質を提供するために必要な能力と能力を持つパートナーの割り当てを可能にするための移行計画を策定する。パートナーローテーションのモニタリングは、適合性テストの対象となる。

1. 非監査業務

当社は、監査クライアントに提供できるサービスの範囲に関連して、IESBAの原則及び適用される法律及び規制に準拠した方針を有している。

当社は、KPMGAZSAが開発したすべての新規サービス及び変更されたサービスを審査し、承認するためのプロセスを確立し、維持することを求められている。KPMGAZSAのEIPは、潜在的な独立性の問題の審査に関与し、Global Independence Groupは、開発されたサービスが複数の法域の監査又は保証顧客に提供されることを意図している場合に関与している。

SentinelTMは、潜在的な利益相反を特定するだけでなく、これらのポリシーへの準拠も容易にすることができる。

サービスの内容や料金など、すべての予定される契約に関する特定の情報は、契約の承認プロセスの一環としてSentinelTMに入力する必要がある。リード監査エンゲージメントパートナーは、SentinelTMの上場監査クライアント、その他の監査クライアント、及び関連会社のためのグループ構造を維持する必要があり、提案された非監査サービスの提供から生じる独立性の脅威、及びそれらの脅威に対処するために利用可能なセーフガードを特定し、評価する責任を負う。SentinelTMを使用すると、グループ構造が維持されているエンティティのリード監査契約パートナーが、世界中のそれらのエンティティに対して提案されたサービスをレビュー及び承認、又は拒否することが可能になる。

1. 料金依存

KPMGインターナショナルの方針は、被監査クライアントからの報酬総額が、監査意見を表明した取引所の会員会社の報酬総額の大部分を占める場合には、自己利益又は脅迫が生じる可能性があることを認識している。

それらは、公益事業体監査依頼人及びその関係事業体からの報酬総額が特定の取引所の会員会社によって2年連続で受領された報酬総額の10%超に相当する場合、以下のとおりとする。

* これは、監査法人のガバナンス担当者に開示される。及び
* 別のKPMG 取引所の会員会社のEQCレビュアーが任命される。

KPMG AZSAが過去2年間に受領した報酬総額の10%以上を占める監査クライアントはいない。

1. 利益相反の回避

利益相反は、KPMG AZSAの担当者が顧客と個人的な関係を有しており、その関係が客観的な立場を維持する能力を妨害したり、妨害しているとみなされたりする場合、又は取引の相手方に関する秘密情報を個人的に保有している場合に発生する可能性がある。このような場合は、RMP又はEIPに相談する必要がある。

全てのKPMGのメンバーファームは、利益相反を特定し管理する責任を負い、そのような利益相反は、十分な知識を有し、合理的なオブザーバーによって、客観的に行動する能力又は偏見なく行動する能力において取引所の会員会社又はその人員に影響を与えた、又は与える可能性のある状況又は状況である。

すべてのKPMGメンバー企業は、SentinelTMを使用して潜在的なコンフリクトの特定を行い、法的及び専門的な要件に従って対応できるようにしなければならない。KPMG AZSAには、特定された潜在的なコンフリクトをレビューし、影響を受けるメンバー企業と協力してコンフリクトを解決する責任を負うリスク管理要員 （ 「リゾルバ」 ） がおり、その結果は文書化されなければならない。

顧客のすべての事項の秘密性が維持されるように、利害抵触が生じる可能性、又は生じると認識される可能性を管理するため、特定の手順を適用することが必要な場合がある。このような手順には、例えば、異なるクライアントにサービスを提供するエンゲージメントチーム間に正式なディバイダを確立すること、及び、そのようなディバイダの動作を監視するための取り決めを行うことが含まれる。

紛争をどのように管理するかについて合意に達することができない状況に対しては、エスカレーションと紛争解決策の手続がとられる。

潜在的なコンフリクトの問題を適切に緩和できない場合、契約は拒否されるか、終了される。

1. 独立政策の違反

KPMGの全職員は、独立性の侵害を認識し次第、EIPに報告することを義務付けられている。当社の独立性に関する方針が遵守されない場合には、コンプライアンス・レビューにおいて特定されているか否かにかかわらず、自己申告によるか否かにかかわらず、専門家は独立性に関する懲戒方針の対象となる。

KPMG AZSAは、独立性に関する方針の違反に関して、文書化された懲戒方針を有している。懲戒方針は、すべての専門家に伝達され、独立規則のすべての違反に適用され、違反の重大性を反映した段階的な制裁が組み込まれる。

監査人の独立性に関する規制の違反は、監査クライアントのガバナンス担当者に報告されるが、その報告は合意された基準に基づいて行われるが、最低でも毎年行われる。

1. 法律、規制の遵守、及び贈収賄や汚職の防止

法令や基準の遵守は、KPMG AZSAの全従業員にとって重要な側面となっていた。特に、我々は賄賂涜職には寛容さがない。

当社は、あらゆる種類の贈賄への関与を、そのような行為が合法であるか、適用法又は現地の慣行に基づいて許可されている場合であっても、禁止している。また、当社は、顧客、サプライヤー又は公務員を含む第三者による贈収賄を容認しない。

KPMG Internationalの贈収賄及び汚職防止に関するポリシーの詳細については、贈収賄及び汚職防止サイトを参照のこと。

1. インサイダー取引防止

内部者取引を防ぐために、KPMGAZSAは資本市場における情報の信頼性を確立することを目的とした内部規則と手続を定めている。これには、監査を受けた事業体の有価証券の保有又は取引の禁止、並びに日本及びその他の法域の公開会社における個人投資を監視するためのウェブ上の独立性追跡システムへの登録が含まれる。

すべてのパートナー及び従業員は、適切な研修を通じて当社の内部者取引方針を理解し、当該期間を通じて適用される方針を遵守し続けていることの年次確認を提供する。

# 適切な人材の採用・育成・配置

品質向上の主な推進要因の1つは、当社の専門家が監査において最高品質を提供するための適切な技能と経験、激情及び目的を有していることを確実にすることである。このためには、専門家の採用、育成、昇進、及び雇用の適切な割り当てが必要である。KPMGのパフォーマンス開発アプローチは、KPMGの価値にリンクされており、成功のために何が必要なのかを、個別に、或いは集合的に明確にするように設計されている。監査の質を確保することは、KPMGクララ・ワークフローの展開及び関連する最新のKPMG監査方法論をサポートするために進行中のトレーニング、計画、及び開発において不可欠な要素であり、プロセスはすべてのKPMG学習プログラムに組み込まれている。

## 採用

KPMG AZSAは、従業員が自らの可能性を発揮し、誇りと意欲を持ってベストを尽くすことができる環境を作ることで、選ばれる雇用主になることを目指している。

すべての応募者は応募書類を提出し、応募書類選考、コンピテンシーベースの面接、精神測定、能力テストなど、さまざまな選考プロセスを経て採用されていた。

KPMG AZSAは、候補者の以前の会社/雇用主に帰属するいかなる機密情報も受け入れない。上級学年（パートナー、ディレクター）に採用された個人については、EIPが正式な独立性の議論を行う。

パートナーの雇用プロセスは厳正かつ徹底しており、パートナー会議や上級執行役員会などの適切なリーダーシップ・メンバーが関与している。パートナーの雇用に関する当社の基準は、プロ意識及び誠実性、品質、並びに選択される雇用者であることへの当社のコミットメントと一致している。

## 自己啓発

当社のすべての専門家が、質の高い業務を遂行するために必要な技術的スキルに加えて、必要なビジネススキル及びリーダーシップスキルを有することが重要である。

監査に関連して、専門家が監査のキャリアの基礎を形成する技能、行動及び個人的資質を開発する機会が提供される。個人の有効性を高め、技術、リーダーシップ、ビジネススキルを開発するためのコースが用意されている。

また、監査を通じて専門的な懐疑心を高め、維持し、発揮することの重要性を確保するため、また、不正行為に関する指導・研修の適切な機会をメンバーに提供するため、各パートナー及び雇用者に対して研修会を継続的に実施している。

また、KPMG AZSAのプロフェッショナルは、職務上のコーチングやメンタリング、ストレッチの割り当て、国別ローテーションやグローバルな移動の機会を利用することで、高いパフォーマンスを実現するように開発されている。

## インクルーシブ・プログラムと多様性プログラム

KPMG AZSAは、インクルーシブな文化を育むために尽力している。インクルーシブ （包括的） であることは、幅広いスキル、経験、視点を持つ成功したチームをまとめることを可能にする。

多様な個性を持つパートナーや社員一人ひとりが、互いの違いを尊重し、最大限に活用しながら、 「質の高いサービスの提供を通じて、お客さまや社会の監査に貢献する」 という共通の目標に向かって、高いパフォーマンスを発揮することを奨励していきたい。

KPMG AZSAでは、多様で柔軟な働き方ができる環境を整えるために、さまざまな取り組みを行ってい。具体的には、グローバル人材の育成;女性の活躍推進;仕事と出産・育児・介護の両立支援;障害者雇用の促進;多様性を受け入れる企業風土の醸成;テレワークを導入し、オフィスワークのスタイルをより一般的なものに変える。

KPMGのInclusion&Diversityについての詳細は、[ここ](https://home.kpmg/xx/en/home/insights/2018/11/inclusion-and-diversity-at-kpmg.html)を参照。

## 品質とコンプライアンスの測定基準を含む評価プロセス

パートナーを含むKPMG AZSAの専門家は、毎年目標設定とパフォーマンスのレビューを行っている。各専門家は、合意された目標、リーダーシップ能力の証明、技術的能力、市場知識について評価される。継続的な改善の文化は、同僚だけでなく、先輩や後輩からも、公式であれ非公式であれ、フィードバックを促すよう奨励されている。収集されたフィードバックは、パフォーマンスレビューの不可欠な部分を形成する。

KPMG AZSAは、パートナー、取締役、経営者の総合的な評価、昇進、報酬を評価するために、品質とコンプライアンスのインシデントを監視し、品質指標を維持している。

パートナーは、主要な品質及びコンプライアンスの測定基準についても評価される。

これらの評価は、パフォーマンスを評価し、パフォーマンス評価を提案する立場にあるパフォーマンス・マネージャとパートナーによって行われる。KPMG AZSAのポリシーでは、監査パートナーが監査クライアントに非保証サービスを販売して成功したかどうかに基づいて評価されたり、報酬を受けたりすることを禁じている。

**報酬**

当社には、明確でシンプルな報酬及びプロモーションの方針があり、パートナーにとっては、主要な監査品質及びコンプライアンスメトリックの達成を含む、業績評価プロセスに関連付けられている。これにより、パートナーや従業員は、彼らに何が期待されているのか、見返りとして何を受け取ることが期待できるのかを知ることができる。

報酬の決定は、個人の業績と組織の（取引所の会員会社）業績の両方を考慮して行われる。社員が自分の成果が報酬に反映されていると感じている度合いは、GPSによって測定され、それに応じて行動計画が策定される。

**販売促進**

業績評価の結果は、パートナーとスタッフの昇進と報酬に直接影響し、場合によっては、KPMGとの継続的な関係にも影響する。

## パートナーの加入

パートナーシップへの参加を承認するプロセスは厳格かつ徹底しており、パートナー会議や上級執行役員会などの適切なリーダーシップ・メンバーが関与している。

KPMG AZSAパートナーシップへの参加基準は、プロ意識と誠実さ、品質、そして選ばれる雇用者であることへの当社のコミットメントと一致している。これらはKPMGの行動能力と強く結びついており、一貫した原則に基づいている。

## 専門家の配置

KPMG AZSAは、エンゲージメントパートナーと他の専門家の両方を、彼らのスキルセット、関連する専門家と業界の経験、及びアサインメント又はエンゲージメントの性質に基づいて特定のエンゲージメントに割り当てるための手続きを用意している。

部門長は、パートナーの割り当てプロセスを担当する。主な考慮事項には、年1回のパートナー・ポートフォリオ・レビューに基づくパートナーの経験と能力が含まれ、サービスの規模、複雑さ、リスク・プロファイル、提供されるサポートの種類（すなわち、チームの構成と専門家の関与）を考慮したうえで、サービスを実施することが求められる。

監査エンゲージメントパートナーは、自らのエンゲージメントチームが、KAM、専門的基準、及び適用される法律上及び規制上の要件に従って監査エンゲージメントを実施するための、適切な能力、研修及び能力 （時間を含む） を有していることを確認する必要がある。これには、当社又は他のKPMGメンバー企業の専門家が関与することも含まれる。

エンゲージメントチーム全体に期待される適切な能力と能力を検討する場合、エンゲージメントパートナーは以下を考慮することができる。

* 適切な研修と参加を通じた、同様の性質と複雑さを持つ監査業務の理解と実務経験;
* 職業上の基準、法律上及び規制上の要件の理解;
* 適切な技術力 （関連する情報技術及び会計又は監査の専門分野に関するものを含む。）;
* 顧客が事業を展開している関連業界の知識;
* 専門的判断力;
* KPMG AZSAの品質管理方針と手順の理解;
* QPRの結果及び規制上の検査の結果、並びに;
* 従業員からの洞察 （GPS） 。

## People調査 （GPS） より

二年に一度、KPMGジャパンは、KPMGで働いた経験についての彼らの認識を共有するために、独立したGPSに参加するように、私たちのすべての人々を招待している。

GPSは、従業員 Engagement Index （EEI） を通じて社員のエンゲージメントの総合的指標と、強みやチャンスと思われるエンゲージメントを促進する分野の分析を提供する。この調査では、こうしたレベルの取り組みを強化する機会も特定されている。結果は、機能的又は地理的領域、グレード、役割、性別によって分析し、さらなる洞察を提供することができる。さらに、従業員のエンゲージメントに影響を与えることが知られているカテゴリについて、私たちがどのように調査しているかについての洞察を提供する。

この調査では、特にKPMG AZSAのリーダーシップとKPMGのグローバルリーダーシップに対して、監査の質、KPMGの価値観、品質に対する従業員とパートナーの態度、リーダーシップ、トップの姿勢に関連した結果を提供している。

KPMG AZSAは、GPSに参加し、調査結果を監視し、調査結果の連絡と回答のために適切な行動をとる。

これには、以下に関連するGPS結果の監視が含まれる。

* トップの監査の質とトーン;
* EEIを通じた従業員のエンゲージメント。

GPSの結果はまた、KPMGネットワークのために集計され、毎年グローバル・ボードに提示され、適切なフォローアップ措置が合意される。

# 卓越した技術と高品質のサービス提供への取り組み

KPMG AZSAのすべての専門家には、彼らが必要とする技術的なトレーニングとサポートが提供されている。これには、監査、報告、及びリスク管理の豊富な経験を持つ上級専門家で構成される専門家及び専門業務部門へのアクセスが含まれ、エンゲージメントチームにリソースを提供するか、又はコンサルティングを行う。

適切なリソースがKPMG AZSA内で利用できない場合は、他のKPMGメンバー企業の高度なスキルを持つKPMG専門家のネットワークにアクセスできる。

同時に、監査方針は、専門家が割り当てられた業務に適切な知識と経験を有することを求めている。

## 生涯学習戦略

前述の自己啓発に加えて、当グループの生涯学習戦略は、すべての専門家がその技術的能力を維持し、適用される規制及び専門能力開発要件を遵守することを求める方針によって支えられている。

**正式な研修**

グローバル、地域、KPMG AZSAレベルのオーディット・ラーニング/ディベロップメント・ステアリング・グループによって、開発とデリバリのための年間トレーニングの優先順位が特定されている。トレーニングは、クラスルーム、デジタル学習、及びパフォーマンスサポートを組み合わせて提供され、監査担当者の職務を支援する。

オーディット・ラーニング&デベロップメント・チームは、必要に応じてGSC、ISG、取引所の会員会社 Department of Professional Practice （DPP） の各専門家やリーダーと協力して、トレーニングの品質が最高であること、パフォーマンスに関連するものであること、適時に実施されるものであることを確認して、トレーニングを受けさせていただき。

## IFRS及び米国GAAP契約のライセンス供与及び強制要件

**実施許諾**

KPMG AZSAのすべての専門家は、適用される専門資格規定を遵守し、業務を行う法域の継続的専門能力開発 （CPD） の要件を満たすことが要求されている。

ポリシーと手順は、ライセンス要件の遵守を容易にするように設計されている。

当グループは、業務に従事する監査の専門家が、監査、会計及び業界に関する適切な知識と、各地域で支配的な財務報告の枠組みにおける経験を有するよう確保する責任を負う。

**必須要件-IFRS及びU.S.GAAP契約**

当グループは、IFRSが主要な財務報告フレームワークではない国において、IFRS契約に取り組むパートナー、マネージャー及びEQCレビュアーに対して特定の要件を有している。米国GAAPに従って作成され、米国の監査基準に従って監査された財務諸表又は財務情報 （企業の財務報告に対する内部統制の有効性 （ICOFR） に関する報告を含む。） に関する報告を目的として米国外で行われる業務にも、同様の方針が適用される。

これには、パートナー、マネージャ、EQCレビュアーが関連するトレーニングを完了していること、及びチーム全体が、契約を実行するのに十分な経験を持っていること、又は不足に対処するための適切な予防措置を実施していることが必要となり。

## 専門家ネットワークへのアクセス

KPMG AZSAエンゲージメントチームは、地元のKPMGの専門家だけでなく、他のKPMGメンバー企業の専門家のネットワークにもアクセスできる。

監査チームのメンバーであり、監査契約への専門家の関与に対して全般的な責任を負う専門家は、その役割を適切に果たすための能力、能力、客観性を有している。これらの専門家には、監査の概念に関する研修が行われている。

特定の監査契約に割り当てられる専門家（IT、税務、保険数理、法医学、評価など）の必要性は、監査契約の承認及び継続プロセスの一部として考慮される。

## 協議の文化

KPMGは取引所の会員会社チームの意思決定プロセス全体をサポートする強力なコンサルテーションの文化を奨励しており、品質監査の基本的な寄贈者である。

KPMG AZSAでは、相談が強みとして認識され、困難な問題や議論の多い問題について相談することを奨励する文化を推進していた。

監査業務の専門家が困難又は議論を呼ぶ問題に対処することを支援するために、業務の問題に関する意見の相違の解決を促進するための手続を含め、重要な会計及び監査の問題に関する協議及び文書化のための手続が確立されている。

これらのプロトコルには、詐欺による重大な虚偽表示を示唆する指標が特定された場合の協議に関する方針及び手順が含まれている。

当社の専門実務リソースを通じて、監査業務の専門家に対して適切なコンサルテーション支援が提供される。

技術監査及び会計に関するサポートは、GSC及びISG、並びに米国キャピタル・マーケッツ・グループを通じて、すべてのメンバー企業及びその専門家に提供されており、SECの外国人登録者に対して提供されている。

**グローバル・サービス・センター （GSC）**

GSCの使命は、コラボレーション、刷新、テクノロジーを通じて、KPMGの監査実務のグローバル・ネットワークを成功に導くことである。GSCは、効果的かつ効率的な監査を容易にするために、KPMGの監査方法及びKPMGの監査専門家が使用する技術ベースのツールを開発、維持及び展開している。GSCの監査チームは、監査、IT、データサイエンス、数学、統計、その他の分野で世界各国からの経験を持つ専門家で構成されており、KPMGの監査機能をさらに進化させるために、多様な経験と革新的な考え方を提供している。

**国際標準化グループ （ISG）**

ISGは、世界各地から参加しているグローバルIFRS及びISAトピック・チームと協力し、IFRSの解釈及び加盟企業間の監査要件の一貫性を促進し、新たな問題を特定し、グローバル・ガイダンスを適時に策定する。

GSCとISGとその活動の詳細は、KPMGの国際透明性報告書に記載されている。

**会員企業の専門家実務リソース**

監査及び技術会計事項に関する適切な相談サポートは、当社の専門実務リソース（DPP （Department of Professional Practice） という。）を通じて監査業務の専門家に提供される。また、チーム内で意見の相違がある場合や、EQCレビュアーと意見の相違がある場合にも、DPPはエンゲージメントチームを支援する。未解決の意見の相違については、最終的な解決のために上級パートナーに上申することが求められる。ISGは、必要に応じて相談に応じてもよい。

KPMGの国際的方針には、取引所の会員会社のDPPに関する最低要件が含まれている。

## ビジネス理解と業界知識の開発

品質の重要な部分は、お客様のビジネスと業界を詳細に理解することにあり。

重要な業界では、関連する業界情報の作成をサポートするために、グローバルな監査部門の責任者が任命され、KPMG監査ワークフローを通じて監査専門家が利用できるようになっている。

この知識には、業界監査手順の例とその他の情報（典型的なリスクや会計プロセスなど）が含まれる。さらに、業界の概要を利用して、特定の業界に関する一般的な情報やビジネス情報を提供したり、KPMG監査ワークフローで提供される業界の知識の概要を提供したりすることも可能である。

# 効果的かつ効率的な監査の実施

監査がどのように行われるかは、最終的な結果と同様に重要である。KPMG AZSAの担当者は、効果的かつ効率的な監査を実施する上で、一定の重要な行動を示し、一定の方針と手続きに従うことが求められていた。

## 継続的な指導、監督、レビュー

私たちは、スキルが時間とともに、異なる経験に触れることによって発達することを理解している。品質を損なうことなくKPMGの専門家のスキルと能力の開発に投資するために、KPMG AZSAは継続的な学習環境を促進し、コーチング文化を支援している。

エンゲージメントマネージャによってサポートされるエンゲージメントパートナーは、監査プロセス全体を通してコーチングと継続的学習の文化を促進し、継続的な監査品質改善の文化を促進するために監査の実施の模範を示す責任がある。

また、不正リスクに適切に対応するために、監査全体の監督と見直しに関する方針と手続を設けている。

監査中の継続的な指導、指導、監督には、以下が含まれる。

* エンゲージメントパートナーの計画協議への参加;
* 監査契約の進捗状況の追跡;
* 業務を遂行するための十分な時間があるかどうか、指示を理解しているかどうか、及び業務が業務に対する計画されたアプローチに従って遂行されているかどうかを含め、業務チームの個々のメンバーの能力及び能力を考慮する。
* 監査中に発生した重要な問題に対処し、計画されたアプローチを適切に修正するための支援;
* 契約期間中に経験豊富なチームメンバーと相談するための事項を特定する。

効果的な指導と監督の重要な部分は、重要事項が迅速に特定され、議論され、対処されるように、実施された作業の適時のレビューである。

KPMG AZSAは、不正リスクに対する監査対応を監督し、レビューするための方針と手続を有している。

## タイムリーな契約品質管理 （EQC） レビュー担当者

EQCレビュー担当者は、エンゲージメントチームから独立しており、エンゲージメントチームによって下されたより重要な決定や判断、及び財務諸表の適切性を客観的にレビューするための適切な経験と知識を有していなければならない。

EQCレビュー担当者は、中間財務情報の関連レビューを含め、上場しているすべての事業体、広く一般に知られている非上場事業体、適用される法律又は規制に基づきEQCレビューを必要とする契約、及びリスク管理パートナー又は国の監査責任者が指定するその他の契約の監査のために任命される必要がある。

EQCレビューは、監査人の報告日よりも前に行われ、特に以下の事項を含む。

* エンゲージメントチームが行った重要な判断及びそれが到達した結論に関する選択された監査文書のレビュー;
* 財務諸表及び監査報告書案の検討;
* 監査報告書の作成において得られた結論の評価及び報告書案の妥当性の検討。

エンゲージメントパートナーは最終的に財務報告と監査の問題の解決に責任を負うが、EQCレビュアーは、監査が完了したとみなされる前に、提起されたすべての重要な問題が解決されていることを確認しなければならない。

不正行為による重大な虚偽記載の可能性が確認された場合、EQCレビュー担当者は、監査チームが行ったリスク評価、実施された監査手順、及び入手した監査証拠の適切性を評価することが求められる。

KPMG AZSAは、監査品質管理システムの基本的な部分であるEQCレビュアーの監査における役割を強化し、改善することを継続的に求めている。これを強化するために、以下を含む多くの措置が講じられた。

* 監査業務に関するEQCレビューの基本方針の策定;
* 効果的なレビューを促進するためのEQCレビューに関するガイダンスの発行;
* 監査リスクに関する理解を得ること、EQCレビューに関する問題についてEQCレビュー担当者に質問すること、及びEQCレビューの現状を監視すること。

客観的なレビューを実施するための適切な経験と知識を有するパートナーで構成されるシニア・レビュー・ボードは、EQCレビュー・プロセスの状況を監視し、監査で下された重要な判断を評価していた。

## 報告等

日本の監査基準及び関連する法令は、主に、すべての重要な点において顧客の財務諸表の公正な表示に関する意見を含む監査人の報告書の形式及び内容を決定している。経験豊富なエンゲージメントパートナーは、実施された監査に基づいてすべての監査意見を形成する。

監査人の報告書を作成する際、エンゲージメント・パートナーは、DPPと協議することにより、広範な報告ガイダンス及び技術サポートを受けることができる。エンゲージメント・パートナーは、会計監査報告書への資格要件として、又は強調事項パラグラフを含めることにより、監査人の報告書の利用者に報告すべき重要な事項がある場合、上級審査委員会の関与を要請しなければならない。

## 洞察力に富み、オープンで正直な双方向コミュニケーション

ガバナンス担当者との双方向のコミュニケーション （監査役会として認識されることが多い） は、監査の質にとって重要であり、報告及びサービス提供の重要な側面である。

KPMG AZSAでは、監査を通じて生じる問題についてガバナンス担当者に情報を提供することの重要性と、彼らの意見に耳を傾け、理解する必要性を強調している。これは、報告・説明、監査役会への出席、経営陣及び監査役との適宜継続的な協議を通じて実現している。

当グループは、会計方針、会計上の見積り、財務諸表の開示、財務報告システムの設計及び運用における重大な不備、監査の過程でそのような不備に気付いた時点の管理、及び是正されていない虚偽記載など、重要な会計慣行の適切性に関する評価などの洞察を提供する。

KPMG研究所

KPMGのグローバルIFRSインスティテュートは、多くの企業に影響を与える会計及び監査に関する最新情報を提供し、KPMGのメンバー企業及び外部関係者を支援している。

例えば、KPMG GlobalやKPMG AZSAのウェブサイトにある[IFRSインスティチュート](https://home.kpmg/xx/en/home/services/audit/international-financial-reporting-standards.html) （https://home.kpmg/xx/en/home/services/audit/international-financial-reporting-standards.html） を利用すると、これらの情報に容易にアクセスすることができる。

## 前任監査人と後任監査人との意思疎通

監査役に異動があった場合の前任監査役と後任監査役との意思疎通について、方針・手順を定めている。これらのコミュニケーションは企業レベルで監視される。

## クライアントの機密保持、情報セキュリティ、及びデータプライバシー

顧客の機密保持の重要性は、グローバル及びKPMG AZSA行動規範、トレーニング、年次宣誓供述書/確認プロセスを含む様々なメカニズムを通して強調されており、すべてのKPMGの専門家はそれを完了する必要がある。

関連するIESBAの要件、及びその他の適用される法律、基準、規制に従った監査文書及び業務に関連するその他の記録の保存期間に関する正式な文書保存ポリシーを有している。

私たちは、情報セキュリティに関する明確な方針を定め、幅広い分野に展開している。個人情報の取り扱いについては、地域の個人情報保護法に準拠した個人情報保護方針を定めており、全従業員への教育・訓練を実施している。

## リスク関連情報

当社は、不正リスクを含む重要な監査上の問題が、エンゲージメント・パートナーの変更があった場合に、後継エンゲージメント・パートナーに確実に伝達されるように、リスク評価とプロセスに関する情報を管理するためのシステムを整備している。

# 継続的改善への取り組み

KPMGは、監査の品質、一貫性、及び効率性を継続的に向上させることに取り組んでいる。統合された品質モニタリングとコンプライアンスプログラムにより、会員企業は、個々の監査業務と品質管理のKPMGシステムの両方に関して、品質の欠陥を特定し、根本原因分析を実施し、是正措置計画を策定、実施、報告することができる。

KPMGインターナショナルの統合された品質・モニタリングプログラムには、品質パフォーマンスレビュー （QPR） プログラム、リスク・コンプライアンスプログラム （RCP） 、グローバル・コンプライアンスレビュー （GCR） プログラムが含まれている。

品質監視及びコンプライアンス・プログラムは、グローバルに管理され、試験及び報告の性質及び範囲を含め、すべてのメンバー企業間で一貫したアプローチをとる。KPMG AZSAでは、社内のモニタリングプログラムの結果と外部の検査プログラムの結果を比較し、適切な処置を講じている。

## 内部モニタリングとコンプライアンスプログラム

当社のモニタリングプログラムは、以下の両方を評価する。

* 適用される基準、適用される法律及び規制、並びにKPMGの国際的な方針及び手続を遵守した関与の履行;
* KPMG AZSAは、KPMGの国際的な方針と手続きを遵守しており、主要な品質管理方針と手続きの妥当性、適切性、効果的な運用を行っており。

統合されたモニタリング・プログラムの結果と教訓は内部で伝達され、プログラムの全体的な結果と教訓が検討され、地域、地域、世界レベルで適切な行動が取られる。

また、社内のモニタリングプログラムは、品質管理システムが適切に設計され、効果的に実施されているかどうか、また、効果的に運用されているかどうかの評価にも寄与している。

KPMGインターナショナルが開発・運営する2つの検査プログラムは、監査・諮問機能であるQPRとRCPを通じて毎年実施されている。

さらに、すべての加盟企業は少なくとも3年ごとに部門横断的GCRプログラムの対象となる。

QPR、RCP、GCRへの参加は、KPMGネットワークの継続的なメンバーシップの条件である。

また、当社の品質管理システムに基づき、不正リスクへの対応を監視・監査するため、以下のプロセスを確実に実施している。

* 顧客との契約の受け入れと継続;
* 指導及び訓練
* 監査プロセス（監督とレビュー、企業内外からの情報への対応、協議、タイムリーなEQCレビュアー、パートナーのローテーションを含む）;
* 前任の監査人と後任の監査人との間の連絡。

**品質業績レビュー （QPR） の監査**

QPRプログラムは、エンゲージメントレベルのパフォーマンスを評価し、エンゲージメントの質を向上させる機会を特定する。

各エンゲージメント主任弁護士は、3年サイクルのうち少なくとも1回、レビューされる。契約の選択にはリスクベースのアプローチが用いられる。

KPMG AZSAは、KPMGの国際QPR指示に従い、年1回のQPRプログラムを実施している。

レビューはKPMG AZSAレベルで実施され、地域的及び世界的に監視されている。

メンバー会社の監査QPRレビューは、取引所の会員会社から独立した上級の経験豊富な主任審査員によって監督される。

**（レビュー担当者の選択、準備、プロセス）**

レビュー担当者の選定には、確固とした基準がある。

監査監督規制当局によって特定された懸念事項及び外部審査者と同程度に厳格である必要性に焦点を当てて、プロセスを監督する審査チーム及びその他の者に研修が提供される。

**（監査QPRからの評価）**

エンゲージメント率及び取引所の会員会社監査実務評価を決定するために、一貫した基準が使用される。レビューの対象として選択された監査契約は、 「満足」 、 「必要なパフォーマンスの向上」 、又は 「不満足」 と評価されている。

**（報告）**

QPRプログラムの結果は、文書によるコミュニケーションを通じて取引所の会員会社の専門家に伝達される。社内トレーニングツール;定期的なパートナー、マネージャ、スタッフのミーティングを実施する。これらの領域は、継続的改善の程度を測定するために、その後の検査プログラムでも強調される。

主監査業務パートナーには、それぞれの国境を越えた業務に関する満足度の低い業務評価（「パフォーマンスの向上が必要」 又は 「不十分」 と定義）が通知される。

また、QPRにおいて品質上の重大な問題が指摘された取引所の会員会社による顧客グループの子会社・関連会社の監査が行われている場合には、親会社・本社の主任監査パートナーに通知する。

**リスク・コンプライアンスプログラム （RCP）**

KPMGインターナショナルは、すべての会員企業に適用される品質管理方針とプロセスを策定し、維持している。これらのポリシーとプロセス、及びそれらに関連する手順は、ISQC 1の要件を含んでいる。

年次RCPでは、品質管理と手順の文書化で構成された堅牢な評価プログラムを実施する。関連するコンプライアンステスト;例外、行動計画、結論の報告。

RCPの目的は、以下のとおりである。

* KPMG AZSAの品質管理システムが、グローバル品質・リスクマネジメント方針及び専門的サービスの提供に関する主要な法規制要件にどの程度準拠しているかを監視・文書化し、評価する;
* KPMG AZSAが、企業とその従業員が関連する専門的基準及び適用される法規制上の要件を遵守しているかどうかを評価するための根拠を提供する。

不備が確認された場合には、適切なアクションプランを策定し、各アクションアイテムの状況を監視することが求められる。

**グローバル・コンプライアンス・レビュー （GCR） プログラム**

各取引所の会員会社は、取引所の会員会社から独立したKPMGインターナショナルのGCRチームが3年周期に1回以上実施するGCRの対象となる。

レビューを実施するGCRチームは、KPMG 取引所の会員会社から独立しており、グローバル品質及びリスク管理方針について客観的で知識がある。GCRは、選定されたKPMGの国際的な方針と手続の遵守状況を評価し、加盟企業間でベストプラクティスを共有する。

GCRは、以下について独立した評価を提供する。

* a品質及びリスク管理（トップの調子）に対する取引所の会員会社のコミットメント、並びにその全体的な構造、ガバナンス及び資金支援の範囲及び当該コミットメントの強化;
* 取引所の会員会社による主要なKPMGの方針及び手続の遵守;
* 取引所の会員会社が自社のコンプライアンス・プログラム （RCP） を実施する際の頑健性。

我々は、全てのGCRの知見に対応するための行動計画を策定し、GCRチームと合意する。行動計画の進捗は、GCR中央チームによって監視されている。結果はグローバル品質・リスクマネジメント運営グループ （GQ&RMSG） に報告され、必要に応じてKPMGインターナショナル及び地域の指導者に報告され、取引所の会員会社が適時に是正措置を講じられるよう支援している。

**ルートコーズ分析 （RCA）**

KPMG AZSAは、監査品質の問題が再発するのを防ぎ、継続的改善の一環としての優良事例の特定を支援するために、監査品質の問題を特定し対処するためにRCAを実施している。

RCAを実施し、それにより、特定された監査品質問題に対する適切な是正計画を特定し、その後策定することは、会員企業の責任である。

KPMG AZSAの監査責任者は、ソリューション所有者の特定を含む、RCAの結果としてのアクションプランの策定と実施に責任を負っている。リスク管理パートナーは、その実施を監視する。

**改善のための推奨事項**

グローバルレベルでは、GAQSCとGQ&RMSGを通して、KPMGインターナショナルは品質監視プログラムの結果をレビューし、取引所の会員会社の根本原因と行動計画を分析し、必要に応じて追加的なグローバル行動を展開している。

これまで、KPMG Internationalが策定したグローバルな改善計画は、KPMGネットワーク全体の文化と行動を変化させ、KPMGメンバー企業内の一貫したエンゲージメントチームのパフォーマンスを促進することを目的としてきた。改善計画は、一貫性を推進し、基礎が正しく、ベストプラクティスがKPMGネットワーク全体で共有されることを保証するためのグローバルなトレーニング、ツール、ガイダンスの開発を通じて実施されている。

## 外部からのフィードバックと対話

1. 規制機関

また、日本公認会計士・監査審査会 （CPAAOB） は、規制者の一員として、日本公認会計士協会が行う品質管理審査を監視し、日本公認会計士協会の公正性、中立性及び実効性を確保している。

審査会は、JICPAによる品質管理審査報告書の審査及び審査を行い、必要と認められる場合には、JICPA、監査法人等に対する立入検査を行う。

国際的なレベルでは、KPMGインターナショナルは、独立監査規制者国際フォーラム （IFIAR） と定期的に双方向のコミュニケーションを行い、監査の質の調査結果と、このような問題に対処するために取られた措置についてネットワークレベルで協議している。

1. クライアントフィードバック

お客さまの満足度を把握するために、お客さまからのご意見を積極的に取り入れ、ご満足いただけるサービスを提供していきたいと考えている。

私たちは、このフィードバックを取り入れ、顧客のニーズを満たすために、エンゲージメントレベルと企業レベルの両方で動的な変更を行うよう努力している。